

第3回松江市における図書館のあり方検討委員会 会議録

1 日 時 令和2年3月30日(月) 14時00分～15時50分

2 場 所 松江市役所3階第2常任委員会室

3 出席者 委員10人、事務局7人、傍聴2人、報道3社

4 会議経過

(1) 開会

(2) 副教育長挨拶

(3) 議事

(4) その他 意見のまとめ方と取り扱いについて 資料3

(5) 閉会

5 議事録

(1) 意見交換

論点⑤文化の発信に関して図書館ができることとは 資料1

⑥県立図書館との役割分担をどうするか 資料1 資料2-1 資料2-2

委員長：「ふるさと、郷土、伝統文化」について。

A 委員：松江市立図書館が松江市の図書館であるので、松江市の資料をたくさん持っていると思う。なので、松江市の歴史や文化が分かりやすくまとめられた資料スペースを設置してほしい。

B 委員：松江の大茶会などを春や秋にお城でよくやっているように、小さい子でも参加できるようなイベントを図書館などでやってくれるといい。松江に住んでいたたり、生まれて育った小さい子たちが、そういう文化に触れて大きくなっていってくれると良いなと思う。

C 委員：地域の文化や歴史などを調べるにあたっては、図書館がやはり軸になって、各所と連携をとって調べものができるというような、中心的役割を持っていただければという思いがある。すなわち、今まで蓄積されてきた情報の正確性やきちんとした管理をしている図書館が中心となって、点在している文化施設や歴史資料館と連携し、そこから発展して、色々調べものができるような中心的役割を持ってもらいたいという思いである。

D 委員：松江の文化などに関する本を集めた展示コーナーとしたが、他の委員の意見を聞いて、そのスペース自体を郷土資料室のような形で別に設置すると良いのかなと思った。それに加えて、文化に関する“もの”も一緒に展示することで、視覚的にとか、体験することで、改めて松江市の文化というものを認識して、それを伝えていくことができるのではないか思った。

E 委員：文化の発信に関して図書館ができることと言ったときに、地域以外のところの人たちに向けて発信するというのが1つあるし、地域の中の人たちに地域の魅力みたいなものを知ってもらうための発信というのもあるのではないかと思う。では、何ができるかといったときに、例えば、松江市に関するレファレンスの記録をホームページに載せたり、地域の古い写真などをデジタル化してアップ（「まち残し事業」という）して地域内外の人たちに知らせることを進めてはどうかと思う。

F 委員：松江市の伝統文化啓発図書と関連して体験できるワークショップの開催。図書館には伝統文化や歴史などの本がたくさんあると思うが、普段生活していて、なかなかそういうコーナーを覗いてみるということは少なく、あまり興味が向かないかなと思う。そこで、あらゆることを体験してみる場を設けて、そこから本のほうへつなげていくという取り組みをされたら良いかなと思う。

G 委員：文化の発信について、元々文化に興味がある方は自分で調べられると思う。最低限の分かりやすいコーナーができていたら良いかなと思うが、「松江市出身の著名人には、これだけすごい人がいますよ」と発信することで、次につながる子どもたちが「松江というのは良いところだ」と思ってもらえるようにするにはどうしたら良いかなと考えたときに、逆に現代で活躍する著名人から遡っていくのも面白いかなと思い、今おられる方にはトークショーを連動してやっていただいたり、ゆかりのある方を招いて複合的に色々なイベントを掛け合わせていくと面白いのではないかなというのが1つ。

それから、私は食文化にすごく興味があるので、松江の郷土料理に興味があるが、子どもたちの給食にもきちんと取り入れられているなと小学生の子どもの献立を見て思っている。せっかくならば学校給食と学校図書館、それから市の図書館と全部連動してみると、「これは聞いたことがあるな」、「学校で聞いたな」というのが何回も入ってくると、子どもたちに根付いてくるのかなと考える。

今、コロナの影響で動画配信がすごく活用されているので、例えば著名人を知ってもらうきっかけを配信サービスなどでして、そこから図書館につなげるような、「読んでみた

い」と思わせる本を紹介していくというのも面白いかなと思った。

委員長：この項目を全体で見ると、非常にバラエティ豊かな様々な意見・要望があるが、今、ご意見をいただいたところでは、主に市立図書館で所蔵・収集されている資料の利活用の部分が非常に多かったと思う。主に地域資料の中でも歴史資料などの収集がどういう状況になっているのか事務局の方に、簡単にご紹介いただきたい。

事務局：市立図書館では資料収集方針があり、その中で、「島根県人の著書や記録、島根県に関係のある著作や記録等は積極的に収集する」となっており、特に「小泉八雲の資料は積極的に収集する」となっている。

委員長：収集方針の中でも明記されているように、そのような歴史文化資料というのは、必要十分に収集がなされているかと思う。今回、ここの論点では、そういったものをいかにもっと活用をしていくのかということだと思う。今日、ご欠席の委員の皆さんの意見の中でも、いくつかそういった、既にある歴史資料などの活用についてのものがあるので、紹介させていただきたい。例えば G 委員の意見では、**Wikipedia town** の活用ということがある。

Wikipedia town というのは、ネット上の百科事典ともいえる **Wikipedia** 上に、まちの情報を責任ある形でどんどんアップしていくといったような活動。一方的にネットに書き込むだけではなく、例えばまちの中の色々な箇所に、スマートフォンなどでアクセスすれば、すぐにその情報の、あらかじめつくっておいた **Wikipedia** の項目に辿り着けるようにしたりとか、ネット上の情報とまちの情報などをリンクさせるような活動のことを言っておられるのかと思う。これを「図書館で」ということであるならば、先ほどの「どのように活用するか」というと、やはり図書館の既存の色々な資料とリンクさせなければ結局のところは意味がないので、例えばだが、**Wikipedia** の特徴というか 1 つの欠点として、「情報の正確性や典拠にあやふやな部分がある」みたいなことが言われることもある。こういった **Wikipedia town** みたいな情報を、図書館の情報資源を典拠にどんどん書いていけば、しっかりとした典拠に基づいて書かれた信頼性の比較的高い情報が **Wikipedia** にどんどんアップされ、それを現地ともリンクしながら見ていくことができる。そのような活用はあるのかなと思う。地域資料などは、外から見ると、「どういったものがあるのか」というのをネットで探すことは意外と難しく、例えばこういった松江市立図書館にあって、**Google** などで検索しても出てこないような情報が、しっかりと冊子体の典拠に基づいてアップされていると非常に有用である。場合によっては「そういった資料があるのか」ということで、市立図書館の資料にアクセスすることにもつながるかもしれない。この **Wikipedia town** という

試みを、市立図書館でやるというのも良いのかなと思う。

そして、E 委員からの発言で、情報を発信していくという中で、デジタルメディアを使ってやっていくということもあったし、「まち残し」ということで、まちの歴史を世代を超えて残していく、例えば古い写真であるとか、場合によっては録音資料なども残していく（例えばまちの民話を語り部の方に語ってもらったものを残していく）といったようなことがあるかと思うが、現状、松江市立図書館は、そういった積極的な地域資料を作成していく取り組みというのをされているか？

事務局：小泉八雲のアーカイブが見られるということはあるが、それ以外は今はやっていない状況である。

委員長：以前、出雲市と合併する前の斐川町立図書館のときに、追憶サービス、レミニセンスサービスということをやっていたと記憶している。これは何かというと、斐川の昔の写真などを残していった、お年寄りが図書館に来て、「昔はこうだったな」みたいなことを思い出すというようなこと。地域資料というのは、その都度記録していくのと同時に活用をしていくと、様々なサービスにつながるということがあるので、松江市の特徴を生かしたこういった発信といったものを更にやっていけると良いのかなと思う。

H 委員：今は図書館に、そういう昔の地域の資料はあまりないとのことだが、私が住んでいる三中や中央小学校の校区には、天神川や大橋川というのが生活にすごく密着していて、子どもたちがふるさと教育をするときに、「天神川の昔の写真はないですか」と、よく地域の人に振られる。「探してみます」と言うのだが、本当はない。80代や90代の方が「天神川のある辺りは、ボートで漕いでいたよ」とか、「天神川には蛍がいて、手で捕まえていたよ」ということを言ってくれて、子どもたちは目をキラキラさせて聞いてくれる。ただ、「写真がない」ということになって、私たちも「図書館に行ってみたらあると思うよ」とは答えていたが、例えば、橋をつくられたときの記録写真など、歴史まちづくり部のほうで、もし何か公開しても良いようなものがあれば、そういうものを少し図書館に置いていただけたりすると本当にありがたいなと思った。また、歴史館やホーランエンヤ伝承館やヘルン旧居など、そこにもかなりたくさんの資料や蔵書があるが、そういうことを一般市民も知らないし、そのような資料館にある色々な文献や資料を、松江市立図書館などが連携して、例えば「あそこに聞けば、あれがあるよ」ということを教えてくださるだけでも、市民の人も助かるなということも思った。

さらに、小中学校はだんだん電子黒板になってきているので、例えば先ほどのふるさと教

育や郷土の歴史などを勉強するときに、電子黒板に映すようになるということになれば、DVDやCD-ROMやデータなどをそこへ映して勉強するようになってくると思う。よって、やはり資料もそういう方向に移っていかざるを得ないのかなと思うので、少しずつ図書館の資料もそのように活用できるように変わっていかないといけないのかなと思った。

委員長：今のことについて、事務局のほうで何かあるか。

事務局：歴史館が古い松江市の写真などをたくさん持っており、小泉八雲記念館も写真を撮られたりしているので、「この写真は、ここに行けば見られるよ」みたいなところを図書館が情報を持っていれば、みなさんにも見てもらえるのかなと思う。

委員長：写真はそういった公的な色々な場所にはあるかもしれないし、個々の家庭にもたくさんあって、もちろん色々な権利関係などを処理しなくてはいけない部分はあるが、そういった散逸しがちのものを何とか収集して、それを体系的に保存ができるの良いのかなと思う。ただ、図書館の場合、博物資料とは違って、必ずしも現物ではなくても、媒体は問わないと思うので、許可を取って電子ファイルで収集をするということも可能だし、例えば歴史館にある資料などの電子媒体を図書館のほうで収集して、もし現物を見たかったら「現物があるので」ということで、歴史館のほうへ案内するとか、媒体を問わず情報というものが見えやすく、いつでもとりあえず見えるという形で収集できるということが工夫次第ではできるのかなと思った。

D 委員：館内資料を典拠にして、Wikipedia 活用というところで思い付いたのが、今、市立図書館は Twitter のアカウントがあると思うので、そちらを活用して市立図書館内にある資料を典拠に、松江市に関する豆知識をちょこちょこ発信していくと面白いのかなと思った。それに加えて、せつかくなら、図書館内の知られざる設備、普段は入れない書庫の裏側などの写真を付けたりとか、あとは司書さんの一言コメントとかがあると、少し図書館が身近に感じられるような気がする。現在は Twitter を活用されている方もかなり多いと思うので、結構良いのかなと思う。

委員長：続いて、「文化全般」について。

E 委員：先ほど話したように、レファレンス事例をアップしたり、あるいは資料残しのような形で写真をアップしたりとか色々なことができると思う。例えばスーパーのチラシなどをずっと取っておくと、20年後、30年後に、その当時の物価がどのくらいだったとかが簡単に知れるというようなことがあり、実はそういうチラシとか、中には喫茶店のメニューとかも集めている図書館もある。これは意外と面白い取り組みかなと思って聞いたことがあ

る。それから、先程の写真だが、市民の方から寄贈いただくだけではなく、例えば図書館員が限られた地点を何年かおきに写真に収めていく（定点観測）と、何十年も経てば、移り変わりが非常に分かって素晴らしい資料になると、よその市町村の図書館でされていると聞いたことがある。そういうことも考えられると思う。

C委員：歴史資料の収集の仕方の方針は伺ったが、色々なところに点在している情報を集めるための仕組みづくりができていないと、それも上手くいかないのかなと感じている。例えば図書館を中心として、「こことリンクを貼りましょう」というところから始めていったほうが良いかなとは思っている。「全部資料をください」と言って、どこかの箱の中にどんどん貯めていっても、その資料を整理する側の労力もかかってしまうので、最初はそういったリンクの貼り方や連携などというような仕組みづくりをしてもらおうと、まずは第一歩が踏み出せるのではないかと考える。公共と民間の垣根を越えた連携で、そういう仕組みができないかなと思った。

H委員：今後、子どもや若い人の数は減っていく。文化の伝承・継承がすごく難しくなってくると色々なところで話に出ている。まずは記録も大切だと思うし、せっかく松江にある茶の湯文化、和菓子文化、八雲塗や陶芸などのようなものの記録をきちんと取っておいていただき、民間と一緒に若人たちに伝えていくような仕掛けづくりとして、何かイベントができるスペースがあって、そこでイベントをやって、もっと深く知りたい人は「文献を見てね」みたいな、そういうことができたという希望がある。

G委員：学校連携というのはすごく良いと思うので、工夫をして、市の図書館と学校の図書館の連動ができたかと改めて感じる。

A委員：色々なところに資料があるので、どの資料をどのようなところに行き探したら良いかということをお教えいただけるような仕組みがあると役に立つのではないかなと思う。

I委員：読書会の開催や地域の人や地域出身の著名人の方が子どもたちのところに読まれていた本などをおすすめするスペースもつくってほしい。松江の文化とか、郷土に関わる歴史的なことを多分用意して下さると思うので、せっかく用意された素晴らしい財産を、家庭の環境に関わらず子どもたちも体験できるように、そこにいくまでの仕掛けとして、学校との連携とかが大事になってくると思う。学校でも仕事体験などがあると思うので、図書館で司書の方に教えていただいて働けるような機会や、小中学校は夏休み一研究や新聞づくりという宿題が出ると思うので、そこで「図書館の方に協力していただきながら、地域のことについて理解を深めるようなことができますよ」というお知らせをしていただくと、親世代も一緒

に、又、子どもだけでも図書館へ行けるような仕組みづくりができて良いかなと思う。

委員長：文化の発信、文化全般ということで特に皆さん共通していたのが、図書館が持っている多様な地域に関する資料を活用していく点で、公共施設または民間の垣根を越えた様々な連携をしつつ、多様な資料を様々な方が利活用できるような仕組みづくりというのが重要という趣旨のご発言だったかと思う。もちろん公共施設との連携、民間企業または組織との連携はすごく重要なことだと思うが、市民の図書館運営への参加というか、いわゆる図書館友の会みたいな活動がされても良いのではないかなと思う。図書館友の会というのは、市民が集まって図書館の運営を支援するという会で、これまでご自身の経験してきた知識や技能を図書館で披露するとか、そこで講演会をするとか、日常的なフロア業務の一部をするとか、市民の図書館の運営への参加というのが、比較的色々な自治体でされている。図書館に図書館友の会の方なども入っていただくことによって、色々な催しをすることで、世代間の情報交換だとか、年配者が様々な知識・経験を若者、または子どもに伝えるということもあれば、反対にお子さんの柔軟な発想だとか、色々な考えだとかをお年を召した方に伝えて交流するだとか、そういったことが図書館友の会などの活動を通して行われているという状況もある。なので、そのような市民の図書館運営への参加というところも、文化全般というところに意見として入れていただくと良いのかなと思う。

もう 1 点。ホームページを活用した地域情報の発信ということがあったが、いわゆる資料のデジタル化したものを発信するだとか、地域の情報を発信するというのももちろん重要だが、図書館が「こういったことをやっています」という広報的・PR 的な情報発信というのが、実はすごく重要ではないのかなと思う。色々なことをやっている図書館があるのだが、ホームページにいくと意外と広報されていないことがあったりする。実際に行かないと分からない図書館が結構多かったりするというのがもったいないなと思うので、ウェブサイトには資料情報自体の発信というのも重要だが、「図書館が何をやっていて、どういうときに図書館に来て、こういうことをすればこれができる」という、そういった広報的な部分というのが、実は結構重要になるのではないかなと思っている。松江市立図書館のウェブサイトには、あるべき情報は結構たくさんあるので、そういったものが、すぐに見られる形にしていくとよいと思った。

委員長：続いて論点⑥について。

—事務局より資料 2-1 と 2-2 について説明—

—E 委員：資料 2-1 をもとに都道府県立図書館の役割について説明—

委員長：E 委員から説明のとおり、都道府県立図書館は一般的に、資料、情報、そして職員・人の面で（域内図書館の）支援及びバックアップを行うというのが第一の任務ということになっており、それに加えて地域、島根県であれば島根県内の直接的な利用者に対するサービスも行っているという説明であった。そういったことも踏まえて、論点⑥は、県立図書館との役割分担をどうするのかというところだが、まず、「立地」という点から。

G 委員：県と市の役割分担というのは、私は一市民で全然知らなかったが、住民に対して適切な図書館サービスを行うなど、市と県が被っているようなところを考えると、市民の目から見ると、こういうものは市の中で分散するほうが納得してもらいやすいのではないかと感じた。今、県立図書館が橋北にあるので、やはり今ありきの図書館の場所なのか、少し南のほうの利便性の良いところで立地をしてもらおうと、市民の方には平等に行き渡るのではないかなと感じた。

H 委員：私も立地については、橋南にあったら良いなと思う。松江市立図書館としては、松江市らしさを表に十分に出してもらって、松江市立図書館ならではの松江市民が集うところ、何かすごい夢を持って、素敵な図書館ができれば良いなと思う。

A 委員：県立図書館は橋北地域にあって、一般の方に公開している以上、橋南から橋北に行くとなると、なかなか遠くなってしまうので、橋南への設置を望む。松江市が広がっているので、分館なども考えて、みなさんが行きやすい場所に、小さいものでも良いので、点在する形で行きやすいところに設置していただくと良いなと思った。

I 委員：橋南という立地であつたら松江市の中では良いのかなと思っている。やはり交通弱者や子どもでも行きやすい図書館であってほしいと思う。できればバスの停留所も、特に循環線、本数の多いバスの停留所ができれば良いなと思う。具体的な計画が決まってきても、こうした市民の意見を聞いていただけるような機会があればと望む。

委員長：今日欠席の J 委員からのご意見として、「役割分担は行政効率の視点であり、市民の使い勝手としては橋北と橋南にそれぞれ大きな図書館があることはメリットだけで、デメリットではありません」とある。それぞれ機能の異なりというのはすごく重要なことではあるのだが、利用者目線からすると、区別がないというか、それぞれにあって利用できるということは非常にメリットであって、意識していなかったということはまさにそうであるし、それはそれですごく重要なことではないのかなと思う。松江市においては、橋北においては県立図書館があり、橋南においては市立図書館があるという、物理的な立地的な役割分担があるので、上手く相互に市民に使いやすいように使い分けされているのではないのか

などと思う。それを上手く使っていくにはどうしたら良いのかという議論なのかなと思う。もちろん図書館の拠点というのが増えていく、分館が設置されるということはすごく良いことだと思うので、できれば増やしていただきたい。

現状では、例えば「松江駅から図書館に行きたい」というときに、松江駅のバス停の行き先に県立図書館も市立図書館もない。これは少しまずいのではないのかなと思う。図書館と利用者とのコミュニケーションというのは、館内だけではなくて、館外から始まっている。

「駅の案内表示から利用者とのコミュニケーションというのが始まる」というようによく言われている。松江市の中心近くに 2 つあるということを知ってもらうためにも、何か案内表示的なものを駅などに書いてもらう必要があるのではないのかなと思う。コミュニケーションというのは、そういうところから始まっていくとよく言われており、そういったところを検討いただけるとありがたいと思う。

立地について、場合によっては役割分担において、より図書館の機能といったものを PR していくという点で言うならば、県立図書館のほうでも異なりというのをきちんと PR していくことが必要であるというようなご意見があったが、それぞれの図書館でそういったところがあるのではないのかなということだと思う。

D 委員：私は「図書館というのは、誰でも使いやすいところであることが重要・必要」ということを何回か言っているが、バスが「これは図書館に行くのだろうか」というのが行きにくさの原因かなというのはすごく感じる場所なので、シャトルバスがあったら良いなということを思った。現状、バス停を増やすというのはかなり難しいことだと思うので、松江駅から図書館までのシャトルバスがあると、「どこに図書館があるのだろうか」という人も行きやすいし、体の不自由な方などや、「少し遠いな」と思ったり、少しでも行きづらさを感じる人が、その気持ちが軽減されるのかなということも思った。

委員長：私も県立大の学生と話をする中で、4 月に入ってすぐでは、特に市内出身の学生ほど市立図書館の場所を知らない。多分橋北に住んでいる学生だと思うのだが、「市立図書館に行ってきた」と言うと、県立図書館に行ってしまうということが何回かあった。だんだんと授業を進めるにつれて分かってくるけれども、そういうことが市立図書館はもったいないことなのかなと思った。図書館は図書館でたくさん良いことをやっているのだから、そういったことを PR していくという点では、もちろん存在の PR もそうだが、何かできるところから結構やれることがたくさんあるのかなと思う。続いて、「機能」という点について。

D 委員：同じ松江市という中に県立図書館と市立図書館があって、区別というのはかなり難

しいところなのかなと思う。だが、松江市で行われる文化的なイベントのチラシであるとか、フリーペーパーのようなものを収集しておくというのも、図書館でそういうことをやっているところは少ないというのを司書講習で聞いたので、そういうことをやっておくと、何年か経ったときに、「こういうイベントがあると聞いたのですが」というように言われたときに、サッと出せて良いのかなと思った。

B 委員：思い切って「子育て環境に傾注した図書館づくり」が必要かと。県立図書館と市立図書館の棲み分けは分かったが、ただ普通に利用する市民の目線で見たとときに、「では、どう違うのか」などが分かりやすくコンセプトで打ち出してあれば分かりやすいというか、誰でも分かるような形でコンセプトがしっかり立ててあれば、より図書館に向かいやすいかなと思って、「コンセプトをしっかり打ち出してほしい」ということを意見として出した。

G 委員：県立図書館と市立図書館の役割について、自分自身も勉強になったと思うが、あまり意識して線引きをするよりも、松江市は今からつくっていくものなので、柔軟に広く面白くできるなとすごく感じた。「松江市らしさ、親しみやすさを大切に」と、すごく抽象的だったが、この委員会に出させていただいて、みなさんの口から、やはり子どもたちとか、教育とか、未来ということがすごく出てきたので、「松江市の図書館はこうだ」ということを打ち出して、市民の方に分かっていたきつつ、一緒につくっていくものにしていく必要があるなと思った。未来をつくる図書館にするとか、子どもたちへのギフトにしていくとなったときに、立ち返る 1 個の軸をつくっておくと、色々なアイデアが出たときに立ち返られるのではないかなと感じた。「松江市がどうしていききたいか」、「図書館自体がどうありたいか」というところを双方向に市民の方に分かっていたきようなものを一緒につくっていくという場にしていく過程を楽しめたなと思うので、これからも情報をいただきたいなと感じている。

C 委員：やはり「立地上、あの場所でなければできない」とか、あるいは「市立図書館ならではの」というようなところを突き詰めていくと、なかなかそれを明確に分けることは難しいなというように考える。やはり市立図書館が「こういうことを打ち出したい」というところを明確に打ち出してもらったほうが、もっと分かりやすくなっていくのかなというように考えるので、その辺りのところも「何があるのか」ということは市立図書館でも色々考えてもらったらなと考える。市民としては、身近で使いやすいというような図書館であってほしいので、もっと入ってもらうために施設であったり、サービスであったり、そういったところをもう少し明確に打ち出してもらえたらなと考える。

F 委員：私は橋南に住んでいるので、どちらかというとし立図書館のほうへよく行っていたので、親しみもあるし、県立図書館のほうは何となく、本の好きな専門的というか、位が高いというか、敷居が高いかなというイメージが今までである。これから松江市の図書館は、そういった敷居が低くて、誰でもいつでも「今日も図書館に行こう」みたいな感じになるような図書館になってほしいなと思う。機能のほうの現状の課題として、「何か調べものをしたいな」となったときも、気軽に相談できるような場所や人がいると、図書館の初心者みたいな人も行きやすいのではないかなと思う。

委員長：市立図書館としてのコンセプト、松江市立図書館らしさといったものをしっかり打ち出していく、明確にしていく、市民にとって分かりやすくしていくといったようなご意見が多かったのではないかなと思った。市町村立図書館というのは、サービス対象が住民すべてということになる。その中でも、分かりやすいコンセプトを打ち出していくというのは、すごく重要なことになってくるかなと思う。それが松江市立図書館、また、松江市の「こういったことを重要に思っていますよ」という市民に対してのメッセージにもなる。そうすると、これまでは「図書館は市内の中心地に 2 つあるよね」、「県立図書館と市立図書館があるよね」というところから一歩先に進んだ「市立図書館はこういう特徴があるよね」、「少し遠いけれども、中央館に行こうか」とか、そういったようなことにつながってくるのかなと思った。ただ、これは今後、どこかで議論を重ねていくことになろうかなと思うが、今、松江市には中央館、そして地域館を 2 館加えた 3 館の建物があるが、中心に近いところでは中央館が 1 つあるというような状況になっている。分館だとか、場合によっては「サテライト的なものが駅前にあったら良いよね」とか、色々なやり方があるが、これまでのように 1 館ですべてやっていくということなのか、それとも建物の場所を分けて、それぞれの館に特徴を持たせるのかとか、色々な方法があるのかなと思う。市民に図書館が何を考えているのかということ、「こういったことを重視しています」、そういったことが、しっかりと図書館の持つ機能を PR することともつなげて、上手く分かりやすく市民に伝えることができ、それによって利用してもらえらるようにはしていけると良いのかなと思った。

論点⑥の「県立図書館との役割分担をどうするか」については、以上とする。

これですべての論点について意見交換が終わったところになるが、本日欠席の委員の方に、事務局のほうから「せっかくですので、何かありますでしょうか」ということを投げかけていただいたところ、ご意見があったので、事務局から紹介をお願いします。

事務局：K 委員からご意見をいただいております、これは全体に関することだと思うので、紹介

する。

「図書館や図書の機能のみに焦点を当てて考えるだけでなく、松江市が目指すビジョンから考えることも大切かと思う。どんな力を持った子ども、人間を育むのか。それに図書・図書館をどうにかすのか。目の前だけでなく、将来的な展望や子どもが心豊かな人に育つことが松江にとって大きな財産になると思う。『用事がなくても気軽に行ける』、『行くと落ち着く』、『ワクワクした気持ちになる』など、居心地の良い設備・演出も検討されるに値すると思う。また、松江全体を見て、市民活動や文化醸成に活用できる施設との役割分担や使い分け、あるいは集約も考えることが必要だと思う。以下、箇条書きで。『子どもの足で行ける図書館（市立図書館だけでなく、公民館も）＝本が身近にある暮らしづくり』、『子どものころの本との出会いや本の活用が成長に大切なことなど、子どもだけでなく、大人への教育』、『学校図書館から市立図書館への誘導「〇〇の本が市立図書館にはもっとたくさんある』、『学校図書館との異なる使い方、楽しみある活用の仕方』、『ファミリー室など、親子や友だち連れで、好きな本を持ち寄って読めるスペース』、『リピート来館、図書貸出が楽しみになる仕掛けづくり』ということであった。

委員長：全 3 回の検討委員会ということだったが、委員の皆様からお出しいただいた意見について、今後まとめていくということになる。まとめ方だが、論点ごとに文章でまとめを行って、資料としてまとめの表を添付するというような形で考えている。また、まとめた意見の取り扱いについては、第 1 回の検討委員会の冒頭で事務局より説明があったように、現行の図書館サービスの改善につなげていくというところがまず 1 つ。もう 1 つは、今後の松江市のまちづくりの議論の中で、図書館のあり方というものを検討していく。これにつなげていく、そのための材料として活用するということになる。意見のまとめ方については、後ほど事務局から最後のところで説明をしていただこうと思うが、議事は、これで終了させていただきたいと思う。